

令和5年度の取り組みについて

1. 安全確保・環境保全に関する取り組み

安全確保を最優先として日々の業務に取り組むとともに、自然災害対策、高経年化対策に取り組めます。また、核燃料物質や放射性廃棄物の安全かつ適正な管理に努めます。



特高受変電設備の設備更新状況

2. 施設の廃止措置に関する取り組み

ウラン濃縮原型プラントでは廃止措置計画に従い、令和3年度から始まった設備の解体撤去を継続するとともに、六フッ化ウランを有効活用するための措置を進めます。

他の施設においても試験等の終了に伴う設備の解体撤去や適切な維持管理を継続します。

また、放射性廃棄物の処理処分研究も進めます。



ウラン濃縮原型プラントにおける設備解体状況

3. 地域の皆さまとともに

「人形峠サテライトオフィスふらっと」の活用や、地元イベントへの参加を通じて地域の皆さまと積極的なコミュニケーションを図るとともに、地域の一員として教育や産業振興等への協力を進めます。



サテライトオフィスにおける子供向け科学工作教室の様子

就任ごあいさつ



令和5年4月1日付けで人形峠センターの所長を拝命した藤原孝治でございます。

人形峠センターは令和4年、事業所を構えてから65周年を迎えました。永きにわたる多大なご理解とご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

現在、人形峠センターは、使命を終えたウラン取扱施設の廃止措置や鉱山施設の閉山措置、これらに関する研究開発を着実に進めています。これからも安全最優先に事業に取り組むとともに、地域の一員として、皆さまとの共生に努めて参ります。今後とも、皆さま方のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

出前説明へお伺いいたします。

人形峠センターでは職員等が職場や地域などのグループへお伺いし、エネルギーや放射線、人形峠センターの仕事について紹介する出前説明を実施しています。お気軽にお申し込みください。

本紙へのご意見を募集しています。右記までご連絡ください。

お問い合わせ先：人形峠環境技術センター総務課
TEL 0868-44-2211 (代表)
E-mail ningyo-kengaku@jaea.go.jp



人形峠環境技術センターからの お知らせ (vol.16) 【自然災害対策編】

鏡野町さんのご協力をいただき、人形峠センターの近況をお知らせいたします。

第16回目は、人形峠センターで進めている自然災害対策などについてです。



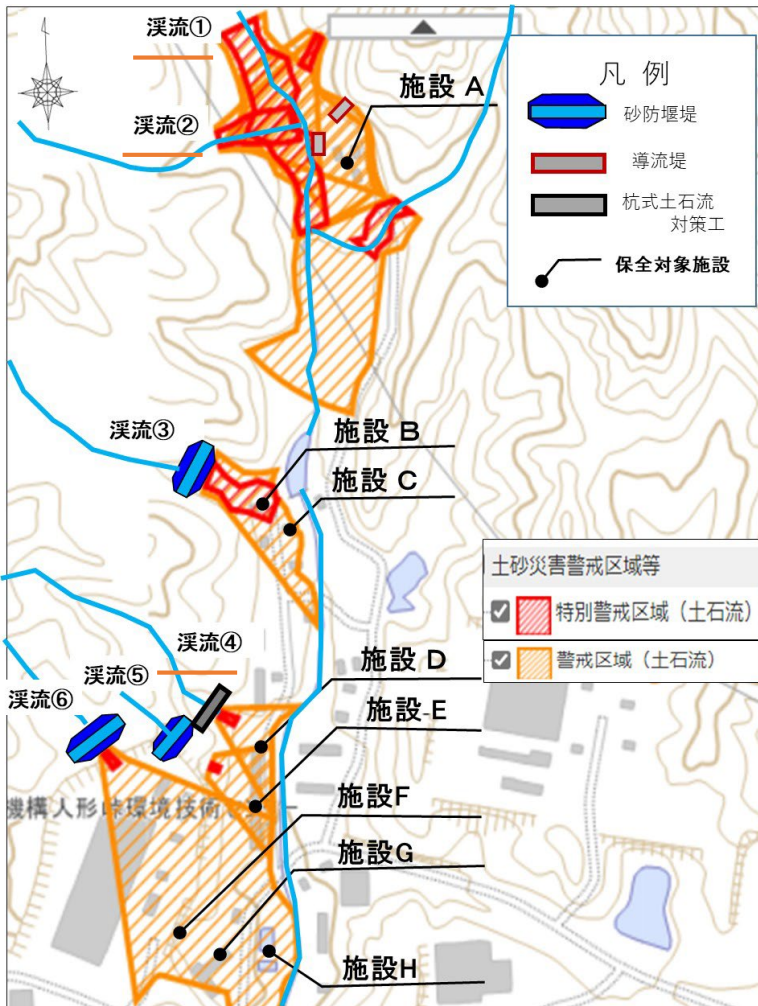
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
核燃料・バックエンド研究開発部門
人形峠環境技術センター

人形峠環境技術センターの 自然災害対策等について

人形峠センターにおいては、施設の安全対策について万全を期すため、自然災害による施設の被害を防ぐ対策を進めています。今回はその一部についてご紹介いたします。（人形峠センター周辺では、平成28年の鳥取中部地震、平成30年の西日本豪雨等の自然災害が発生しましたが、施設の安全に影響はありませんでした。）

①土石流対策工事

- 人形峠センターの構内には、吉井川の源流である池河川が流れています。
- 令和2年度、岡山県は池河川流域に新たに土砂災害警戒区域等を設定、公表しました。
- 人形峠センターでは、万一、土石流が発生しても施設の安全に影響を与えないようにするための備えを進めています。
- 令和4年度に測量及び調査、詳細設計を実施し、令和5年度から対策工事を開始いたします。



引用：「おかやま全県統合型GIS」
(<http://www.gis.pref.okayama.jp/pref-okayama/Map>)

岡山県特別警戒区域（土石流）、警戒区域（土石流）範囲図に加筆

令和6年度以降の施工を予定している砂防堰堤のイメージ（溪流③⑤⑥部分）

* 写真はイメージであり、実際の施工状況とは異なる場合があります。



令和5年度に施工する導流堤（土石流の流れる方向を制御する）のイメージ（溪流①②部分）



令和5年度に施工する杭式土石流対策（土石や流木を受け止め、泥や砂を少しずつ下流に流す）のイメージ（溪流④部分）



②濃縮工学施設西側法面の安全対策工事



I 期工事
(R4年度終了)

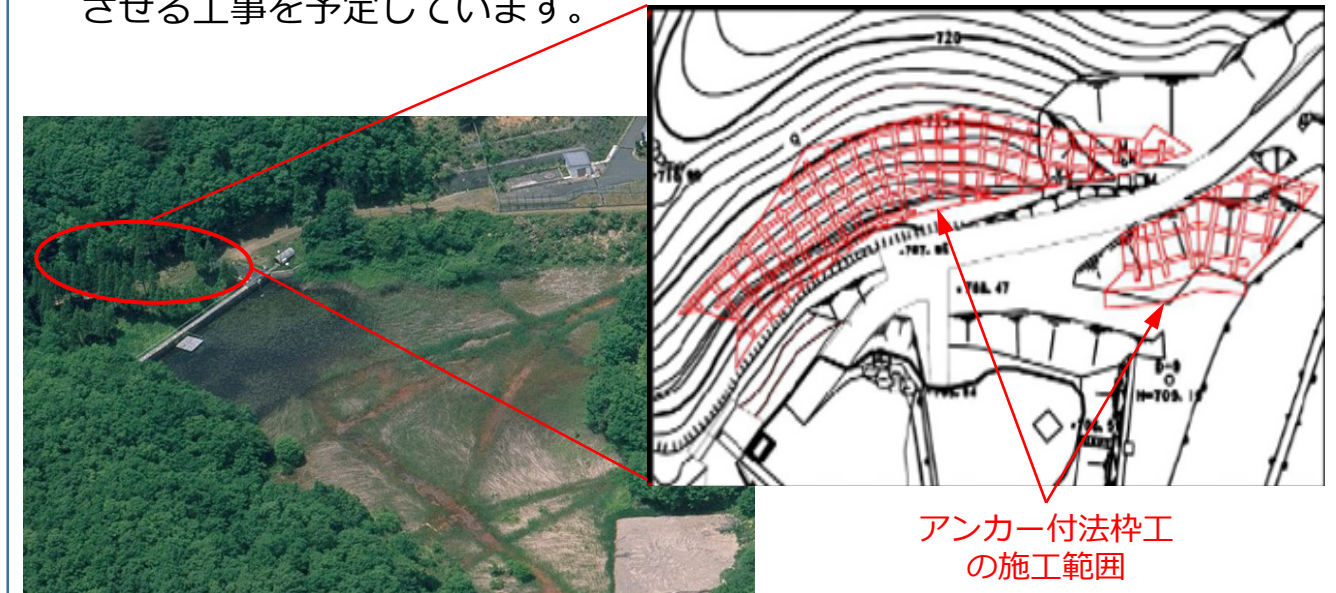
II 期工事
(R5年度予定)

III 期工事
(R6年度以降予定)

- 平成29年10月に濃縮工学施設の西側法面で小規模な地滑りが発生し、防護柵の設置などの応急措置を行ってききましたが、令和4年度から恒久対策工事を行っています。
- 工事は、鉄筋挿入やアンカー（杭）の挿入、地下水の流れを排除するなどの地すべり防止対策を行います。
- 令和5年度は中腹の工事を予定しています。

③鉍さいたい積場右岸盛土等対策工事

- 鉍さいたい積場は、ウラン鉍石からウランを取り除いた後の残渣（鉍さい）を保管するとともに、旧坑道などから発生する水（坑水）を処理施設に送るまで、一時的に溜めるため池状の施設です。
- 地震等により鉍さいたい積場の下流側斜面が崩落することで、坑水を処理施設に送る埋設配管等が破損しないように、令和5年度に斜面の安定性を向上させる工事を予定しています。



アンカー付法枠工の施工範囲